

令和2年度 事業計画

岡山理科大学附属中学校

優れた教育内容を提供し、学んでいる子ども達の学力をさらに伸ばし、難関大学・難関高等学校入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



社会のグローバル化や産業構造の転換等により、個人に求められる能力は変化しつつあります。社会の持続的な発展を支えながらも自らの人生を切り開く力が必要です。そのために、次の項目に重点を置いた教育を展開していきます。

○人材形成と学力育成

大きな変化が見込まれる将来に向かって、自己の夢を実現し、目標を達成させるためには、まず、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する姿勢が欠かせません。そのため、これまでの知識・技能の教育に加えて、思考力や判断力さらには表現力、そして主体性・論理性という「真の学力の伸長」に取り組んでいきます。また、日々の学校生活を通して、基本的学習生活習慣をつけさせます。

○国際理解と国際力向上

グローバル社会の到来を踏まえ、異文化を理解し、国際力をつけることは、自己の表現力が付いた強い人間の養成につながると考え、英語力の強化に取り組みます。

○家庭との信頼関係

家庭と学校を繋ぐ生活記録ノートの活用により、生徒個々の家庭と密接に連携し学校内の様子等が伝わりさらなる信頼が得られるように努めます。

○組織力の向上

安定した学年運営を行うために、教職員が現状を把握するとともに、各々が分析を行い意識改革することで組織力の強化に努めます。

○経営基盤の安定

生徒確保に向けて学校組織全体で広報活動を強化しながら教育改革を進めます。生徒及び保護者が満足できる学校とするために、安定した経営基盤の構築に教職員が一丸となって努めます。

私たち教職員一同は、加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、「生活三則」の指導に一丸となって取り組んでいきます。

立志三風

- 一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風を尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風を養う（友愛）

生活三則

- 一、場を清めましょ
う
- 一、時を守りましょ
ま

岡山理科大学附属中学校 校長 田原 誠

I. 教育について

1. 人格形成と学力育成に関する中期目標	
中期計画	令和2年度事業計画
生徒に対して、立志三風と生活三則を継続的に推進します。 【1-1】	■服装指導の実施 服装モットーは「凜とした爽やかさ」です。制服-規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしを指導します。 ■挨拶の励行 朝のあいさつ運動や職員室への入室指導などを通し、気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導します。この指導が面接での自己表現力に繋がるように努力します。
生徒一人ひとりを尊重し、お互い協力できる生徒作りを推進します。 【1-2】	■共通の教育目標 基本的な生活習慣を確立して、集団の中で協力しながら生徒が主体的に活動できる力を身につけるよう指導します。 ■将来につながるリーダーの育成 体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事は実行委員が主体的に運営しています。生徒が自主的に活動する中で企画力、実践力、思考力などを学び、個々の人間形成力を育成します。
学力を定着・向上させるための、学びの習慣化を推進します。 【1-3】	■クラス編成 令和元年度入学生からは、SRクラスとして多様な進路志望に対応できるようにし、同じ敷地内にある大学、高校との連携教育を実施することで、より深い見地から専門的な学びが出来るように改編しました。 3年生は、高校進学クラス（定員40名）と中高一貫クラス（定員40名）と2種類のクラス編成です。高校進学クラスは、難関公立高校や難関私立高校への進学を目指します。中高一貫クラスは、国公立大学や難関私立大学への進学を目指します。 ■共通の教育目標 少人数教育を生かして、生徒の学力の向上を進めます。さらに、国際的な視野を持ちながら、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる力を身につけるよう指導します。 ■クラス別教育目標 <ul style="list-style-type: none"> ・SRクラス（第1・2学年） 深い学びを通してしっかりとした学力をつけ、自分の進路をしっかりと考えて選択できる力の養成に努めます。 ・高校進学クラス（第3学年） 難関高校への進学に必要な学力の養成に努めます。また、高校で求められる、自分の考えをわかりやすく説明できる力の養成に努めます。 ・中高一貫クラス（第3学年） 基礎学力を充実させることから始め、それをふまえて国公立大学や難関私立大学への進学に必要な学力の養成に努めます。また、科学的・論理的な思考能力を高め、探求活動を推進させます。 ■カリキュラム・シラバス関係 (1)SRクラスの国語・数学・英語の授業進度は、中学3年の前期までに原則中学校の学習内容を終え、残りの期間は高校入試対策を含めた中学校内容の復習を行います。岡山理科大学附属高等学校のグローバルサイエンスコースで学習していく上で必要な学力の定着を進めます。 (2) 高校進学クラスと中高一貫クラスの授業進度は、原則として3年生前期まではほぼ同じように進めます。3年生後期からは、高校進学クラスの授業では高校

	<p>入試対策を実施し、中高一貫クラスの授業では一部高校の学習に繋げるための学習を行います。</p>
	<p>■授業・学習関係</p> <p>(1) 1単位あたり年間35時間の授業時間を確保します。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のための臨時休業により授業時間が確保できないため、夏期休業などを短縮して授業を設けます。</p> <p>(2) 受験対策としての補習を実施します。</p> <p>■考査関係</p> <p>成績不振の判定基準点を設け、基準点に達していない生徒への指導を行います。指導期間中の部活動は原則禁止とします。</p> <p>■校外模試</p> <p>(1) 学習の定着度をはかり、全国との学力比較や各生徒の弱点の把握などのために、校外模試を受験します。</p> <p>(2) 高校進学クラスでは、県内の高校入試対策として県模試等の各種模試を受験します。</p> <p>■自習教室の開設</p> <p>全学年の生徒を対象とし、自学自習の習慣を身につけることを目的に、岡山理科大学と連携し、教員志望の大学生を講師として自習教室を通年で週3日、放課後に開講します。</p> <p>■学習計画の指導</p> <p>「学習の記録」にその日取り組む学習計画を書き、できたことをチェックする習慣が身につくよう、指導します。また、「自分史プロジェクト」と題して、さまざまな活動についての振り返りをまとめ、ポートフォリオが作成できるよう指導します。</p>
<p>学力を向上させるための、教授法研究を推進します。【1-4】</p>	<p>■授業改善</p> <p>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業やICTを利用した授業方法、評価方法などの教職員研修会を定期的実施します。さらに、「Classi」（ベネッセ）を利用して、教員間の情報共有を図ります。</p> <p>また、他者を尊重しながら自分の考えを表わし深める力や論理的に考えることが出来る力の養成に努めるために、岡山理科大学附属高等学校が取り組んでいる国際バカロレアの教育手法を取り入れます。</p> <p>さらに、教員の授業力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176と連携を継続します。</p> <p>■教科会議・学年団会議の強化・連携</p> <p>各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進し、情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図ります。</p> <p>また、学年団会議ならびに中学校担任会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行います。</p>

II. 学生支援について

1. 生徒支援体制の強化に関する中期目標	
中期計画	令和2年度事業計画
入学から卒業までの支援体制の強化を構築します。【2-1】	<p>■家庭、地域社会との協力・連携強化</p> <p>毎日の生活記録ノートの確認や家庭への電話連絡等で家庭との協力を深めます。また中学生専用の定期バスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施や、御野学区連絡協議会などを通じ、地域との連携をしていきます。</p> <p>■教育相談室・保健室との連携</p> <p>思春期である中学生期を心身とも健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化します。</p>
社会との協働で、生徒の視野が広くなり常識的な習慣を身につけられるように、社会との繋がりを強化します。【2-2】	<p>■社会性規範育成への取組</p> <p>外部講師による講演などを活用し、規範意識の啓蒙に努めます。学校独自としての規則だけではなく、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導や話し合いを行います。</p> <p>■情報教育</p> <p>生徒のインターネットリテラシーの現状を踏まえ、情報モラルの向上に努めます。その一環として岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施します。また、SNS等個人情報の適切な扱いを指導します。</p>

III. 国際化について

1. 国際理解と国際力向上に関する中期目標	
中期計画	令和2年度事業計画
国際化を日常的なものにとらえ、多様な教材等を使用し語学の伸長に対応できる工夫をします。【3-1】	<p>■論理力向上のための取り組み</p> <p>国語授業の中で「論理エンジン」を副教材として取り扱い、論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養います。また「Literas 論理言語力検定」や「作文検定」を受検し、論理的思考力・表現力の定着度を図ります。</p> <p>■英会話</p> <p>英会話を1～3年生の全クラスで実施し、自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養います。この授業についてはケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176 スタッフの協力を得て実施します。また、1年生から大学入学共通テストを見越し、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定機構が発刊するコースブックを使用しています。</p> <p>■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施</p> <p>(1) 1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目標とします。 (2) 2年在籍生徒の8割以上が4級以上の取得を目標とします。 (3) 3年在籍生徒の6割以上が3級以上の取得を目標とします。 (4) 教員が生徒に対し、積極的に受験指導を行います。</p> <p>■TOEFL Primary Test を1・2年生に実施・希望者にケンブリッジ Key Test 実施</p> <p>(1) 1年修了時にはCEFRのA2レベルをクリアすることを目標にします。 (2) 2年修了時にはCEFRのB1レベルをクリアすることを目標にします。 (3) CEFRのB1レベルをクリアした生徒にはTOEFL Junior Standardの受験を勧めます。</p>

	<p>■授業・学習関係</p> <p>岡山理科大学附属高等学校で令和2年度から開始される国際バカロレア教育の手法を取り入れ、課題に対して論理的・批判的に考えて研究する取り組みを設けます。グローバル社会に適応できる人材の養成に努め、語学力の向上を図ります。</p>
--	--

IV. 組織・運営について

1. 組織力の向上に関する中期目標	
中期計画	令和2年度事業計画
<p>学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織作りを目指します。【4-1】</p>	<p>■学校運営会議の強化</p> <p>校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、学校全体の運営方針に基づき、学校運営が円滑にかつ革新的に進むよう、学校業務の企画立案および連絡調整を強化します。</p>

V. 内部質保証について

1. 内部質保証システム体制の確立に関する中期目標	
中期計画	令和2年度事業計画
<p>内部質保証システム体制の確立と第三者評価を導入します。【5-1】</p>	<p>■生徒による授業評価・教員自身による授業評価</p> <p>確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に活かします。</p> <p>■生徒・保護者・第三者による学校評価</p> <p>学校教育活動が教育目標の実現のために適切に行われているかどうかについて、生徒・保護者ならびに第三者による外部評価を頂き、それをもとに学校教育活動のさらなる改善を図ります。</p> <p>■授業計画書の作成</p> <p>全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解できるようにし、円滑な学習活動を助けます。</p> <p>■考査関係</p> <p>定期考査の成績処理終了後、各教科各学年の学習定着状況を把握し、授業計画書を見直します。</p> <p>■成績評価基準の見直し</p> <p>観点別評価のルーブリックを各教科で整備して、「知識・理解」に偏った評価にならないよう、授業中の活動や課題提出なども正當に評価し、生徒が主体的に学ぶことができるような教育改革を進めます。</p>

VI. 運営・財政基盤について

1. 志願者増加への方策に関する中期目標	
中期計画	令和2年度事業計画
<p>情報提供を一層強化します。【6-1】</p>	<p>■情報提供</p> <p>(1) オープンスクールや理科実験教室のアンケートによれば、参加動機の上位には常に「小学校からの案内」がランクインしています。小学校の自由研究系課題とリンクさせた企画内容を維持するとともに、印刷物等により案内を行います。</p> <p>(2) オープンスクールや入試だけでなく、学校の情報を新しくリニューアルしたホームページやfacebookでも、迅速に幅広く提供します。</p> <p>さらに、直前には新聞等の告知を行い、生徒数の確保に努めます。</p>
<p>塾との信頼関係をより一層強化します。【6-2】</p>	<p>■塾との関係の強化</p> <p>中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をします。</p> <p>従来の塾訪問に加えて「通勤経路型塾訪問」を実施し、それぞれの塾に本校教職員の担当固定化を行い、相当数の塾訪問を計画し、円滑に実施します。</p> <p>さらに、入試結果を踏まえた塾対象入試説明会をオンラインで6月に実施予定です。</p>
<p>イベントの内容を充実します。【6-3】</p>	<p>■広報企画</p> <p>昨年度も実施した「県立中学校適性検査型対策講座」等には多くの児童保護者の参加がありました。今年度も継続実施し、引き続き本校教員の各入学試験分析力と入学試験作題力の向上を目指します。</p> <p>また、学校見学（個別オープンスクール）にて、児童保護者に対し平素の学校を見学する機会を設け、3年生で開講している学校設定科目「理科実験」の見学を積極的に呼びかけます。</p> <p>①県立中学校適性検査型早期対策講座（5月 オンラインで開催） ②県立中学校適性検査型対策講座（10月） ③教科型入試対策講座（11月） ④オープンスクール（7・8月）（本校教員による参加体験型授業） ⑤理科実験教室（8月） （岡山理科大学教員による参加体験型授業） ⑥論理教室（6・7・8月） ⑦トワイライト天体観測会（9月）</p>
<p>入試制度を検証します。【6-4】</p>	<p>■入試制度の検証</p> <p>多様な力を秘めている児童ひとりひとりの力がはかれるように、「推薦入試（調査書型）」「推薦入試（基礎学力型）」「適性検査型入試」など入試制度を検証し、さらなる受験生増につながる入試制度の策定に取り組みます。また、オープンスクール参加から入試出願まで受験者の便宜を図るため「web出願」導入を実施します。</p>

主な行事予定

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休業ならびに行事の中止・延期があります)

4月8日	始業式(6月1日に延期)
4月9日	入学式(中止)
4月25日	健康診断(7月に延期)
4月18日	授業参観(11月に延期)
5月31日	PTA総会(中止)
6月14日	音楽鑑賞(中止)
9月10日～12日	修学旅行
9月22日	体育祭(岡山ドーム)
10月31日	爽凜祭(学習発表会)
12月17日	百人一首大会
2月5日、6日	校外活動
3月13日	卒業式
3月15日～23日	海外研修(中止予定)
3月19日	終業式

生徒・教員数

■在籍生徒数

(令和2年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	64	240	146

(単位：人)

■教職員数

(令和2年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員計
1※	1	9	10

※校長は附属高等学校と兼任

事務職員
1

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

年度		令和2年度 予算額	令和元年度 決算額
科目			
教育活動 収支	収入		
	学生生徒等納付金	80,677	70,228
	経常費等補助金	52,477	52,711
	その他収入	3,641	3,121
	計	136,795	126,058
教育活動 収支	支出		
	人件費	118,795	119,455
	教育研究経費	30,158	23,667
	管理経費	16,850	11,676
	その他支出	0	0
計	165,803	154,798	
教育活動収支差額		△ 29,008	△ 28,740
教 活 外	収入		
	受取利息等	0	1
	支出		
借入金利息等	0	0	
教育活動収支差額		0	1
経常収支差額		△ 29,008	△ 28,739
特 別	収入		
	資産売却差額等	0	1,303
	支出		
資産処分差額等	0	0	
特別収支差額		0	1,303
基本金組入前収支差額		△ 29,008	△ 27,436
基本金組入額合計		0	△ 2,261
当年度収支差額		△ 29,008	△ 29,697